

【No. 20】

●「自分も好きなことは、ずっと取り組むことができるが、きらいなことはあまり長く続かないので、自分のことをそのまま映して見ているように感じた。前、道徳の授業でやったように、“どうせ無理”と言わず苦手な教科を取り組み、一学期よりよい成績にしたい」

- ⑤「私は、0点を取ったことはありません。だから、もし0点を取ったら非常に不安になると思いました。もし、0点を取ってしまったらこの話を思い出し、“一生懸命”やったテストだ、と言えるようにしたい。やらずに後悔するより、やって後悔する。私はそれが良いと思いました。（もちろん一番良いのは、がんばった百点だが…）」
- ⑥「ぼくは、1学期の定期テストで、0点を取ってしまいました。ぼくはその0点のテストを見たときは、悔しく思っていました。しかし、そのテストを親に見せたら、『お前がこの結果でいいならいいけど、悔しがっていないなら、お前はあとで後悔するよ』と言われました。その日からぼくは、復習もしっかりやるようになりました」
- ⑦「点数というのは後々ついてくるものであって、自分の成長において最も大切なのは、その点数を取るまでの『過程』だと思った。私は、“この失敗には価値があったな”と実感したことはまだないが、同じ0点でも、取るのならば価値のある方の点数を取りたい。そのために、何事にも全力で取り組みたいと思った」
- ⑧「ぼくもこのような性格で、小学校の頃、漢字のテストで8点を取ってしまった時があります。捨てようと思いましたが、母に止められてしまいました。もちろんしかられました。ただその時、『人生はね、花がいくつもあるの。水をかけられない花もあるけど、少しずつでもいいからかけてあげなさい』、こう言われました。ぼくはこの言葉を聞いた時から、別の花にも水をかけるようになりました」
- ⑨「期待した結果が得られなくても、同じ0点でも、自分の気持ち次第でこんなに値打ちが違うのかとびっくりした。頑張ったのにあまり良くなかったとき、結果だけでなく過程を見てくれる社会になったらいいなと思った」
- ⑩「テストの点数ではなく、取り組む姿勢などが大事だし、意味があると思った。80点でもその先忘れてしまったら意味がないし、逆に30点でも頑張って勉強したなら、それは未来のためになると思う」
- ⑪「私も、やる気のでる授業とゆううつになる授業があります。やっぱり、楽しく取り組んでいるものは、テストで他の教科よりも良い点数が取れました。苦手な教科は、自分なりに頑張って勉強しましたが、やっぱり苦手は苦手で、あまり良くありませんでした。でも、苦手はもっと頑張れば普通くらいにはなれるのではないかと思って、今一番頑張っています。次のテストの結果は上がっているのか、怖いですが、今から楽しみです」
- ⑫「『見えない努力』でも、テストは自分の本当の力を見るためのものと書かれていて、一生懸命に行ったテストなら良いテストだと思うけど、手抜きのテストでは自分の力も試せないと思いました。中間テストでは、一生懸命に勉強して良いテストにしたいです」
- ⑬「“頑張ったのに期待した結果が得られない”、私もこのような経験をしたことがあります。ですがこの本を読むと、頑張ったことそのものは、いつか実感できる成果となって、芽を出してくると書いてあったので、なんだか勇気づけられたような気持ちがしました。なのでこれからも、頑張ったことは無駄にならないということを知ったので、努力をし続けたいと思いました」
- ⑭「お母さんの一言がすごいですき」

- 「自分も一生懸命やって80点と手抜きで90点だったら、絶対に一生懸命やって80点の方が嬉しく感じる。物事は全て一生懸命にやっていきたい」
- 「これを読んでもものすごく共感しました。ぼくはそろばんで何度か0点を本気で取ってしまい、先生にも親にも同じようなことを言われたことがあります。“あんなに練習したのに!”とすこしがっかりしてしまった、あの『0点事件』を思い出しました。でも、この文を読んだら、努力すればやはりいつか成果が表れるんだなと思いました」
- 「私はまだ今まで0点を一回も取ったことがないのですが、もし私が0点を取ってしまうようなことがあるならば、この物語にでてきた母が言うように、一生懸命やって取りたいです。あと、この物語の主人公のように、どれだけ点が悪くてもテストを必ず見せて、自分を戒めようと思いました」
- 「ぼくは前回のテストのとき、ひどい点数を取った教科がありました。でもその教科は、まったく勉強していなく、これがもっと勉強してこの点数だったら、点数は上がらなくても値打ちは上がったのかなと思いました」
- 「人には覚えのいい人と覚えの悪い人がいるが、覚えがいいから勉強しなくていいや、覚えが悪いから勉強してもむだだと、マイナスに考えたり面倒くさがったりする人と、覚えがいいから他のことも覚えよう、覚えが悪いから勉強しようプラスに考えたり、前向きに考える人では、今後の人生が大きく変わると思った」
- 「僕は今まで、テストでいい点が取れなかったときに、“自分はダメだ”と自分を責めていました。けど、この文章を読んで、“自分はベストを尽くしたから、次にどうすれば点数をあげられるのか”を考えた方がいいと思いました」
- 「確かに0点といっても、一生懸命やったのか手を抜いてしまったかによって変わると思った。この先、努力してもすぐには結果として返ってこないこともあるかもしれないが、地道な努力を大切にしていきたい」
- 「確かに結果として0点は良いとは言えないが、そこから何を学ぶかが大切だとわかった。失敗から何も学ばなければ変わらないと思うので、とにかく一生懸命やってダメだったら、そこで終わりにしないでもっと頑張れる人になりたい」
- 「テスト勉強を一生懸命やって0点を取ったら、この言葉を思い出すと心が楽になれる気がするが、怠けて0点を取った上にこの文を読むと、恥ずかしくなる気がする」
- 「何もしてこなくて低い点を取ったか、頑張って勉強して低い点を取ったかだったら、私は後者の方が良いと思います。なぜなら、頑張って勉強しても低い点を取ったら、“何がダメだったか” “どう改善していけばいいのか” が分かり、次のテストで高い点が取れる可能性があります。しかし、何もしないで低い点を取ったら、具体的な改善方法がわからず、テストの意味が無いからです。テストは頑張れば頑張るほど、成績や点数にも頑張った成果が表れていると思うので、苦手な教科でも頑張って高得点を取れるようにしていきたいです」
- 「どうせやってもダメなんだと何もせず自分を見捨てるのだけはやめたいものじゃな」

「値打ちのある0点、恥ずかしい0点」

興味がわく授業もあれば、「ああまたこの授業か」と始まる前からゆううつになる授業がありました。好きなことには何時間でも夢中になって、ぶっ続けにできるのに、そうでないことには、やらなくてはいけないとわかっていながら、そっぽを向いてしまう性格の私は、成績にもずいぶん凸凹がありました。

高一の時でしたが、こんなことがありました。理科の実験が主の授業でした。水素を作るその実験がとても面白く、先生が、「止めなさい。これからきょうの実験の説明とまとめをしよう。」と言って話を進めているのに、私は実験器具を床におろし、机のかげで水素の“増産”に励んでいました。

なんと！その授業の終わりに不意打ちテストがあったのです。先生の話は何も聞かず実験を続けていた私は、そのテストで0点を取ってしまったのです。後日、答案返却の日に、「お前は何を聞いていたんだ。こんな点数を取らせるために授業をやってんじゃない！！」と先生に叱られました。母子家庭で育った私は、どんな成績のものでも必ず母に見せていました。見せなさいと言われたわけではないけれど、見せるのは当たり前のことと思っていましたし、母もたとえ成績が悪くても、それを責めるということが一度もなかったので見せやすかったのです。いつもの通り、帰宅すると母にその0点の答案を見せました。数秒それを見て沈黙。何と言われるかと私は母の言葉を待っていました。

「あんたが一生懸命やって0点やったら立派な値打ちのある0点や。だけど、手抜きして、怠けて取ってしまった0点やったら、人間としてこんな恥ずかしい0点はないよ。」とぼつりと言っただけでした。成果が出ない結果を前にして、今でも私は母のその一言を思い出しては元気とやる気を取り戻しています。

私は三十五年間、中学校で数学を教えてきました。その間に教えた生徒たちの中には、0点を取ってしまった人が何人もいました。その答案を返すたびに、私は自分がかって取った0点とそのときに言われた母の言葉を思い出し、その話をすることがありました。

頑張ったのに期待した結果が得られないことがあります。でもいいじゃないですか。頑張ったことそのものは、いつか実感できる成果となって芽を出してくるはずです。努力を怠り、どうせやってもダメなんだと何もせず自分を見捨てるのだけはやめたいですね。

《感想》 1年()組()番 氏名()

